

(令和7年10月)

種類	市況の概要
(青果部の動向)	
青果全般	<p>10月は前年と同様に、天候不順の影響が大きく、多くの品目で品質や収量の低下がみられたため、総入荷量は前年同月並みであり、総取扱金額は6%下回った。今後、入荷は暑さを避け定植を遅らせた品目の入荷等により徐々に回復が期待される。</p> <p>11月は、野菜では、聖護院だいこんや大かぶ、海老いも等の入荷が増える。果実では、みかん類は早生種が出始め、りんご類はサン富士が主力となり、柿類は富有柿やアンポ柿の入荷が増える。</p>
野菜	<p>野菜全般の入荷量は曇天多雨からの低温の影響により前年同月比で4%下回ったが、単価は過去5年で最高の単価だった前年同月を3%下回った。</p> <p>根菜類の入荷量は前年同月比で8%下回ったが、単価は4%上回った。</p> <p>葉菜類の入荷量は前年同月比3%上回り、単価は17%下回った。</p> <p>果菜類の入荷量は前年同月比で3%下回ったが、単価は11%下回った。</p> <p>土物類の入荷量は前年同月比で11%下回り、単価は48%上回った。</p>
果実	<p>果実全般の入荷量は前年同月比で9%上回り、単価は10%下回った。</p> <p>かんきつ類の入荷量は前年同月比で31%上回り、単価は13%下回った。</p> <p>りんご類の入荷量・単価は品種によってばらつきがあり、全体としては前年同月並みであった。</p> <p>柿類の入荷量は前年同月比で13%上回り、単価は14%下回った。</p> <p>ぶどう類の入荷量は前年同月比で20%下回り、単価は5%上回った。</p> <p>メロン類の入荷量は前年同月比で7%上回り、単価は11%下回った。</p>

主要品目（野菜）	市況の概況
【根菜類】	
長だいこん	北海道を中心に、青森、岩手、石川などからも入荷した。猛暑が生育に影響し、入荷量は前年同月比で3%下回ったが、入荷量が増加し、販売単価が下がった10月中旬以降の影響で単価は13%下回った。
西洋にんじん	北海道を中心に入荷した。入荷量は前年同月比で23%下回ったが、単価は48%上回った。
【葉菜類】	
はくさい	長野を中心に入荷した。入荷量は前年同月比で3%上回り、単価は17%下回った。
キャベツ	群馬を中心に、長野、茨城などからも入荷した。高温の影響を受け入荷量は前年同月並みであったが、単価は33%下回った。
ほうれんそう	岐阜を中心に、茨城、和歌山、京都などからも入荷した。入荷量・単価はともに前年同月並みだった。
レタス	長野を中心に、茨城、兵庫などからも入荷した。入荷量は前年同月比で6%上回り、単価は37%下回った。
【果菜類】	
きゅうり	滋賀、北海道、福岡、宮崎、京都などから入荷した。入荷量は前年同月並みであったが、単価は16%下回った。
なす	高知を中心に、京都、岡山などからも入荷した。入荷量は前年同月比で7%下回ったが、単価高で推移した前年と比べて、単価は14%下回った。

とまと	北海道、岐阜を中心に、熊本、福岡、滋賀などからも入荷した。入荷量は前年同月比で11%下回ったが、生食の需要が低く、単価は14%下回った。
ピーマン	茨城、大分を中心に、高知、兵庫、宮崎などからも入荷した。入荷量は前年同月比で9%上回り、単価は4%下回った。
【土物類】	
ばれいしょ (メーケイン含む)	北海道を中心に入荷した。入荷量は前年同月比で6%下回り、単価は79%上回った。
たまねぎ	北海道を中心に、兵庫などからも入荷した。入荷量は前年同月比で17%下回り、単価高で推移した前年と比べても単価は77%上回った。
【その他野菜】	
松茸	中国を中心に、アメリカなどからも入荷した。入荷量は前年同月比で21%下回り、単価は20%上回った。
栗	愛媛を中心に、京都などからも入荷した。入荷量は前年同月比で86%上回り、単価は38%下回った。

主要品目（果実）	市況の概況
極早生みかん	和歌山を中心に、熊本、宮崎、福岡から入荷した。暑さ対策や害虫対策が奏功したため供給が安定し、入荷量は前年同月比で29%上回り、単価は13%上回った。
富士	青森を中心に、山形、岩手から入荷した。入荷量は前年同月比で23%下回り、単価は12%上回った。
刀根柿・平核無柿	和歌山を中心に福井、奈良、山形から入荷した。入荷量は前年同月比で11%上回り、単価は16%下回った。
シャインマスカット	長野を中心に山梨、岡山、鳥取から入荷した。入荷量は前年同月比で18%下回り、単価は5%上回った。
アールスメロン	茨城、静岡、鳥取を中心に高知、山形などから入荷した。入荷量は前年同月比で47%上回り、単価は24%下回った。